かちまいスポーツ
記録の速報は▼kachimai.mobi
Eメール▼sports@kachimai.co.jp
写真がほしい▼0120-25-9410
ファクス▼0155-25-2700

帯大谷男女頂点

個人戦も全種目制覇

全十勝高体連 バドミントン

（5月20〜22日・よつ葉アリーナ十勝）

男女の団体戦と個人戦シングルス（単）、ダブルス（複）を実施した。男子15校、女子16校が出場した団体戦は、帯大谷が男女とも優勝した。男子（宇佐見慧主将、池田侑輝、宇佐見慈、岩間琉哉、砂原泰斗、川村柊斗、藤田基起＝以上3年）は6連覇。女子（藤野屋香凜主将、道端菜々美、上野稜佳、佐藤柚夕＝以上3年、濱下亜美＝2年、江口碧＝1年、木村百華＝同）は新型コロナウイルスの影響で中止となった昨年を挟み3年ぶりの頂点に立った。2位は男子が帯工、女子が帯南商だった。個人戦も帯大谷勢が全種目を制覇。男子単は池田、同複は池田・岩間組が制した。池田は3冠。女子単は濱下、同複は上野・佐藤組が頂点に。全道大会（15〜18日・帯広市）は、団体戦が男女上位各4校、個人戦はシングルス上位各4人、ダブルスは上位各4組が出場する。（北雅貴）

【男子団体戦決勝・帯大谷—帯工】第1ゲーム、帯大谷の池田侑輝（手前）が鋭いスマッシュを打ち込む。ペアの岩間琉哉と息の合ったプレーで個人戦ダブルスも優勝した

盤石V6全道奪冠だ

男子

盤石の6連覇だった。帯大谷男子は準決勝までに団体戦の登録メンバー全員を起用。ベストの布陣で臨んだ決勝は、帯工を3—0で破り、付け入る隙を与えなかった。

宇佐見慧主将と双子の弟の慈の第1ダブルスは、ファイナルゲームにもつれ込む接戦をきっちりと物に。個人戦ダブルス優勝の池田侑輝・岩間琉哉組、同シングルス2位の砂原泰斗が失点を抑えながら、それぞれストレート勝利を収めた。

学校事情で大会前に1週間ほど全体での活動ができなかった。それでも各自が考えながら自主練習。3冠に輝いた池田は前向きに捉えた。「けがをしていたので治していくと同時に再発しないようなトレーニングをした」と振り返った。徐々に強度を上げた。

全体練習は直前の3日間だけで、感覚を取り戻すとともにかなり追い込んだメニューで汗を流した。宇佐見慧主将は「皆、競技ができる喜びでにこにこしながらも内容は厳しくできた。大会では筋肉に疲労があった中で、勝ち切れたのも良かった」と話した。

2018年の道高体連で北北海道を制し、南北海道優勝校の札幌第一との全道決勝でも勝利し初の全道覇者になった。再来を目指す。今年1月の全国高校選抜大会北北海道予選会では、決勝で旭川実に0—3で敗れた。地元で行われる道高体連で冬の借りを返して弾みをつけ、南北海道も倒す青写真を描く。

男子団体戦6連覇の帯大谷（前列右から3人目が宇佐見慧主将）。池田侑輝（前列右から2人目）は個人戦シングルスと、岩間琉哉（同左から2人目）と組んだ同ダブルスも頂点に立ち3冠を達成

【女子団体戦決勝・帯大谷—帯南商】トップダブルスとしてストレート勝ちして優勝に貢献した帯大谷の藤野屋香凜主将（手前）と濱下亜美組

ライバル撃破

女子

故障明け藤野屋主将も意地

「入学してから団体戦で一度も南商に勝てていなかった。優勝はうれしい」。帯大谷女子の藤野屋香凜主将はにっこりと笑った。

帯南商には2019年の高体連十勝支部予選から3大会連続で敗れていた。第1ダブルスで濱下亜美と組んだ藤野屋主将は、強い気持ちでコートに立った。

昨年6月に左膝の前十字靱帯（じんたい）断裂と半月板損傷の大けが。手術したものの11月に靱帯が再断裂し、現在も部の仲間と完全には同じメニューの練習をできていないが、「主将として、勝つ姿を後輩に見せたかった。ストレートで勝利できて良かった」と安堵（あんど）した。

準決勝まで第1シングルスとして奮闘した道端菜々美副主将と支え合ってきた。藤野屋主将が「部をやめようかと思った時もあったが、（道端から）『待ってるよ』と声を掛けてもらった」と振り返った。道端は「時には厳しい言葉も互いに言い合った。きょうは良い顔をしてプレーしていた」と喜んだ。

個人戦ダブルスを制した上野稜佳・佐藤柚夕組、シングルス覇者の濱下も危なげなかった。

昨年はコロナ禍で高体連大会は軒並み中止。今年も緊急事態宣言下での試合に。会場を特別に開けてもらった。道端は「本当に多くの人に支えられていると改めて思った」と感謝。道高体連は北北海道制覇を狙う。藤野屋主将は「レシーブから攻める展開を磨く」と意気込んだ。

女子団体戦優勝の帯大谷（前列右から2人目が藤野屋香凜主将）。上野稜佳（前列右端）・佐藤柚夕（同左端）組は個人戦ダブルス、濱下亜美（中列左端）は同シングルスも制した

20年ぶり全道へ

男子準V帯工

○…大健闘の準優勝だ。男子の帯工は2位だった2001年以来、20年ぶりの全道切符。昨年12月の大会で敗れた帯柏葉に、準決勝で3—2と雪辱を果たした。関根一誠主将（3年）は「ほっとした」と喜んだ。

帯柏葉戦では第1ダブルスの関根・及川令穏組（3年）のペアをあえて崩し及川もシングルスに。第2ダブルスで山田偉央・末永健太郎組（3年・2年）がストレート勝ち。及川と関根はそれぞれシングルスで勝利した。関根は「勝つためのオーダーがはまった」と勝因を挙げた。

決勝は帯大谷に0—3。及川は「決勝（進出）は何十年かぶりになるとは聞いていた。前回も2位なので大谷を倒して優勝したい気持ちはあったが、壁は高く厚かった」と苦笑いした。

1月の全国高校選抜大会北北海道予選会は8強。関根主将は「自分たちの力を最大限に発揮してベスト4入りを」と力を込めた。

男子団体戦準優勝の帯工（前列左から2人目が関根一誠主将）

もっと集中力を

女子準V帯南商

○…2連覇とはならなかった。帯南商は団体戦女子準優勝。藤川愛結瑠（あゆる）主将（3年）は「優勝が目標だったので悔しい。試合の流れを左右する場面での集中力が必要だった」と唇をかみしめた。

昨年12月の高校新人十勝地区予選会を制し、年明けの全国高校選抜北北海道予選会で準優勝と結果を残した。ただ、4月の個人戦で実施された全十勝春季高校大会で単複ともに帯大谷勢に1、2位を占められた。

今大会の決勝は帯大谷と対戦。「格上だと思って臨んだ」（藤川主将）。熊谷星来（2年）が勝利し一矢報いるも、1—3で敗れた。多くの選手が前半はほぼ互角に戦えたが、11点のインターバル開けで流れを持ってこられなかった。

道高体連での目標は南北海道優勝校との対戦。つまり北北海道を制しインターハイ出場だ。旭川実や帯大谷など強豪校に立ち向かう。

女子団体戦準優勝の帯南商（前列中央が藤川愛結瑠主将）

個人戦男子上位入賞者。（前列左から）関根一誠、及川令穏、廣瀬大城、瀬藤智史と（後列左から）池田侑輝、岩間琉哉、宇佐見慧、宇佐見慈、砂原泰斗、池田泰輔

個人戦女子上位入賞者。（前列左から）江口遥、柏村茉那、木村百華、江口碧と（後列左から）上野稜佳、佐藤柚夕、藤野屋香凜、濱下亜美、熊谷星来

【男子】〈団体戦〉▽1回戦
幕別清陵 3—1 白樺学園
芽室 3—1 音更
帯三条 3—0 清水
帯工 3—0 足寄
帯北 3—0 鹿追
帯緑陽 3—0 本別
帯柏葉 3—0 帯農
▽準々決勝
帯大谷 3—0 幕別清陵
帯三条 3—0 芽室
帯工 3—1 帯北
帯柏葉 3—1 帯緑陽
▽準決勝
帯大谷 3—1 帯三条
帯工 3—2 帯柏葉
▽第3代表決定戦
帯柏葉 3—2 帯三条
武下佳司・澤沼蒼太郎 0（17—21、12—21）2 ○池田泰輔・山田都月
○越川匠・三浦啓斗 2（23—21、21—16）0 田中翔・栗田大夢
○高橋吏玖 2（21—8、21—7）0 畠山湧名
三浦 0（10—21、15—21）2 ○池田
○越川 2（21—17、23—21）0 田中
▽決勝
帯大谷 3—0 帯工
○宇佐見慧・宇佐見慈 2（21—18、21—23、21—18）1 及川令穏・関根一誠
○池田侑輝・岩間琉哉 2（21—11、21—7）0 山田偉央・末永健太郎
○砂原泰斗 2（21—16、21—10）0 前田息吹
〈個人戦〉◇シングルス▽準々決勝
砂原泰斗（帯大谷）2—0 及川令穏（帯工）
池田泰輔（帯三条）2—1 越川匠（帯柏葉）
関根一誠（帯工）2—1 瀬藤智史（帯大谷）
池田侑輝（帯大谷）2—0 山田都月（帯三条）
▽準決勝
砂原 2—0 池田泰
池田侑 2—0 関根
▽第3代表決定戦
池田泰 2（21—18、21—19）0 関根
▽決勝
池田侑 2（21—7、21—14）0 砂原
◇ダブルス▽準々決勝
池田侑輝・岩間琉哉（帯大谷）2—0 山田悠月・白戸優希（帯南商）
関根一誠・及川令穏（帯工）2—1 越川匠・高橋吏玖（帯柏葉）
瀬藤智史・廣瀬大城（帯大谷）2—0 池田泰輔・山田都月（帯三条）
宇佐見慧・宇佐見慈（帯大谷）2—0 三浦啓斗・澤沼蒼太郎（帯柏葉）
▽準決勝
池田・岩間 2—0 関根・及川
宇佐見慧・宇佐見慈 2—1 瀬藤・廣瀬
▽第3代表決定戦
関根・及川 2（21—18、15—21、21—19）1 瀬藤・廣瀬
▽決勝
池田・岩間 2（21—19、21—14）0 宇佐見慧・宇佐見慈

【女子】〈団体戦〉▽1回戦
帯大谷 3—0 帯工
足寄 3—0 幕別清陵
帯緑陽 3—0 音更
帯柏葉 3—0 本別
帯三条 3—1 帯北
広尾 3—1 清水
芽室 3—1 鹿追
帯南商 3—0 帯農
▽準々決勝
帯大谷 3—0 足寄
帯柏葉 3—0 帯緑陽
帯三条 3—0 広尾
帯南商 3—0 芽室
▽準決勝
帯大谷 3—1 帯柏葉
帯南商 3—2 帯三条
▽第3代表決定戦
帯三条 3—2 帯柏葉
○内田千晴・奥田梨乃 2（21—16、21—19、16—21）1 横山朋果・横濱心南
伊東弥那・村上朱理 0（15—21、17—21）2 ○本間陽・藤川麻愛
福原悠奈 0（15—21、17—21）2 ○鈴木日和
○内田 2（21—14、21—16）0 本間
○奥田 2（21—18、21—14、19—21）1 藤川
▽決勝
帯大谷 3—1 帯南商
○藤野屋香凜・濱下亜美 2（21—11、21—19）0 江口遥・柏村茉那
○上野稜佳・佐藤柚夕 2（21—12、21—16）0 藤川愛結瑠・川西美咲
木村百華 0（11—21、25—27）2 ○熊谷星来
○濱下 2（21—9、21—11）0 江口
○江口碧 1（21—15、15—8打ち切り）0 柏村
〈個人戦〉◇シングルス▽準々決勝
濱下亜美（帯大谷）2—0 奥田梨乃（帯三条）
熊谷星来（帯南商）2—0 高砂美玲（帯緑陽）
江口遥（帯南商）2—1 内田千晴（帯三条）
江口碧（帯大谷）2—0 柏村茉那（帯南商）
▽準決勝
濱下 2—0 熊谷
江口遥 不戦勝 江口碧
▽第3代表決定戦
熊谷 不戦勝 江口碧
▽決勝
濱下 2（21—13、21—13）0 江口遥
◇ダブルス▽準々決勝
藤野屋香凜・濱下亜美（帯大谷）2—0 内田千晴・奥田梨乃（帯三条）
江口遥・柏村茉那（帯南商）2—0 本間陽・藤川麻愛（帯柏葉）
江口碧・木村百華（帯大谷）2—1 藤川愛結瑠・熊谷星来（帯南商）
上野稜佳・佐藤柚夕（帯大谷）2—0 高砂美玲・畏地香菜（帯緑陽）
▽準決勝
藤野屋・濱下 2—0 江口・柏村
上野・佐藤 2—1 江口・木村
▽第3代表決定戦
江口・柏村 2（21—15、21—19）0 江口・木村
▽決勝
上野・佐藤 2（21—17、7—21、21—19）1 藤野屋・濱下

陸上

◇日本学生個人選手権

小玉（白樺高出）3位入賞

女子走り幅跳び6メートル05

4〜6日、神奈川県平塚市のレモンガススタジアム平塚をメイン会場に行われ、女子走り幅跳びで白樺学園高出の小玉葵水（東海大北海道3年）が6メートル05（追い風5・2メートル＝追い風参考）で3位入賞を果たした。

同100メートル決勝（追い風0・4メートル）に進出した臼井文音（立命館大3年—立命館慶祥高、帯南町中出）は11秒92で4位に食い込んだ。

同砲丸投げの久保田亜由（九州共立大2年—帯農高出）は14メートル57で5位、西山藍那（筑波大2年—同）は12メートル12で24位。円盤投げにも出場した西山は41メートル04で20位だった。

【女子】（十勝関係分）◇100メートル▽予選8組（追い風1・5メートル）＝②臼井文音（立命館大—立命館慶祥高、帯南町中出）11秒83・準決勝へ▽準決勝1組（追い風2メートル）＝①臼井11秒67・決勝へ▽決勝（追い風0・4メートル）＝①石川優（青山学院大）11秒58④臼井11秒92

◇走り幅跳び▽決勝＝①北田莉亜（関西学院大）6メートル18（追い風1・6メートル）③小玉葵水（東海大北海道—白樺学園高出）6メートル05（追い風5・2メートル）＝1回目ファウル、2回目5メートル99（風速計不具合）、3回目5メートル97（追い風3・5メートル）、4回目5メートル93（同6・1メートル）、5回目6メートル03（同2・6メートル）、6回目6メートル05（同5・2メートル）

◇砲丸投げ▽決勝＝①大野史佳（埼玉大）15メートル28⑤久保田亜由（九州共立大—帯農高出）14メートル57＝1回目14メートル07、2回目14メートル15、3回目14メートル51、4回目14メートル57、5回目14メートル44、6回目14メートル52㉔西山藍那（筑波大—同）12メートル12＝12メートル11、12メートル12、ファウル

◇円盤投げ▽決勝＝①齋藤真希（東京女子体大）55メートル01・大会新⑳西山藍那41メートル04＝1回目41メートル04、2回目ファウル、3回目39メートル20

ラグビー

7人制道予選 帯工高は6位

第8回全国高校7人制大会予選会が5月30日、旭川市東光スポーツ公園球技場で行われた。十勝代表の帯工は初戦で旭川龍谷に7—24で敗れた。帯工は順位戦に回り、初戦で旭川工を破り、5位決定戦は函館ラ・サールに敗れ、6位だった。決勝は札幌山の手が50—5で旭川龍谷を破り、2大会連続6回目の全国大会（7月17〜19日・長野県上田市）出場を決めた。

◇1回戦
旭川龍谷 24—7 帯工
◇順位戦1回戦
帯工 22—7 旭川工
◇5位戦
函館ラ・サール 33—7 帯工